

6 5 __広島大学__教育学部・教育学研究科__沿革・設置目的資料

1. 沿革 資料 1 - 1 ~ 1 - 2

2. 設置目的 資料 2 - 1 ~ 2 - 2

	広島大学 社会分野
学部等の教育研究 組織の名称	教育学部（495名） 教育学研究科（M：157名、D：49名）
沿 革	<p>明治35年（1902年） 広島高等師範学校を設置</p> <p>昭和4年（1929年） 広島文理科大学を設置。広島高等師範学校は広島文理科大学に附置。</p> <p>昭和24年（1949年） 新制広島大学教育学部を設置。</p> <p>昭和28年（1953年） 大学院教育学研究科（修士課程、博士課程）を設置。</p> <p>昭和53年（1978年） 学校教育学部を設置。</p> <p>昭和55年（1980年） 大学院学校教育研究科（修士課程）を設置。</p> <p>平成12年（2000年） 学校教育学部と教育学部を統合し、教育学部に改組。大学院教育学研究科（博士課程）と学校教育研究科（修士課程）を改組・統合し、大学院教育学研究科（博士課程）を設置。</p>
設置目的等	<p>昭和24年、広島文理科大学、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校、広島青年師範学校等を包括して新制広島大学の教育学部が発足した。発足当時の教育学部は、東千田町の教育学部本部（中等学校教員養成にあたってきた広島高等師範学校（明治35年創設）の文科・理科と広島文理科大学（昭和4年創設）の教育学科（教育学専攻及び心理学専攻）が母体）、東雲分校（明治7年創設の白島学校を嚆矢とする広島師範学校が母体）、福山分校（広島青年師範学校（昭和19年創設）と広島女子高等師範学校（昭和20年創設）が母体）、三原分校（三原女子師範学校（明治42年創設）が母体）と11の附属学校園（うち附属幼稚園は昭和41年設置）を擁し、教育学部本部（東千田町）は教育学・心理学の教育と高等学校教員養成を、福山分校は高等学校教員養成を、東雲分校と三原分校（昭和37年に東雲分校に統合）は義務教育諸学校の教員養成を、それぞれ担った。</p> <p>その後、昭和28年に大学院教育学研究科が設置された他、学部・大学院に、学科・専攻等が随時増設された。昭和53年の改組により東千田町の教育学部本部と福山分校が教育学部となり、東雲分校は独立学部となって学校教育学部が設置された。さらに昭和55年には、大学院学校教育研</p>

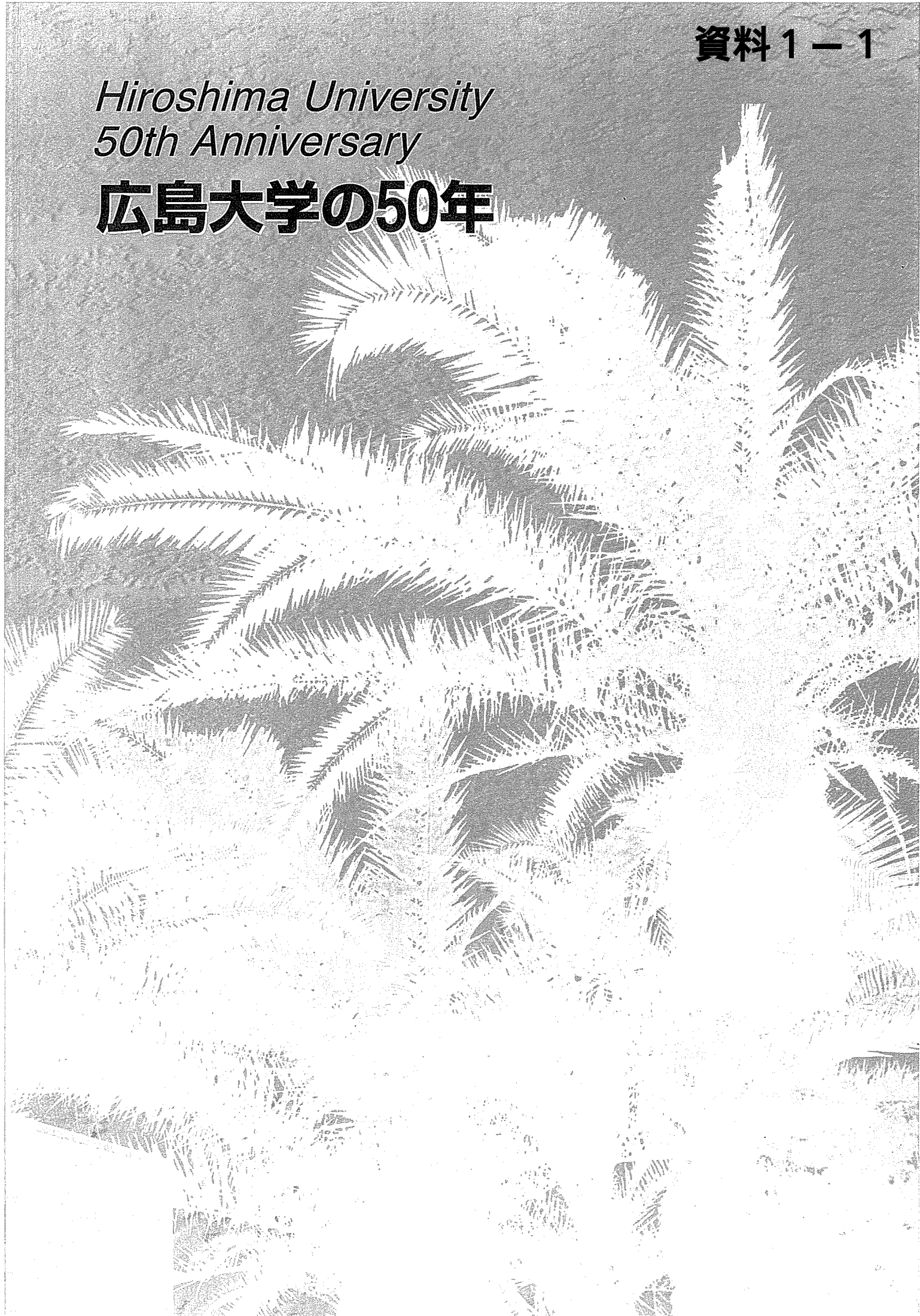
究科が設置された。平成12年には、「教育」や「学び」という人類に普遍の営みを専門的に学習することが、21世紀の地球的課題を「学ぶ」ことにつながるという理念のもと、21世紀にふさわしい学校教育の創造と生涯学習社会構築への貢献を目指し、小学校から高等学校までの教員のみならず、生涯学習社会の幅広い職業分野で活躍できる人材の育成を目的として、学校教育学部と教育学部が統合され、教育学部となった。

また、同年、①「学び」という人間の本質的な営みを鍵概念として、豊かな生涯学習社会を導く教育諸科学の先端的研究を推進する、②理論的研究と実践的研究を統合することによって、21世紀を切り開く新たな教育諸科学の学問体系を構築する、③幼児から老年にいたるまでの教育、学習、人間発達等にかかわる諸課題を総合的・学際的に研究し、現代社会のニーズに応えるという理念・目標のもとに、21世紀の教育の担い手である実践的な指導力を持つ質の高い教員をはじめとする幅広い教育関係分野で活躍できる高度専門職業人の養成、教育学研究分野において高度な学識を有する研究者の養成を目的として、大学院教育学研究科（博士課程）と学校教育研究科（修士課程）が改組・統合され、大学院教育学研究科（博士課程）となった。

強みや特色、
社会的な役割

Hiroshima University
50th Anniversary

広島大学の50年

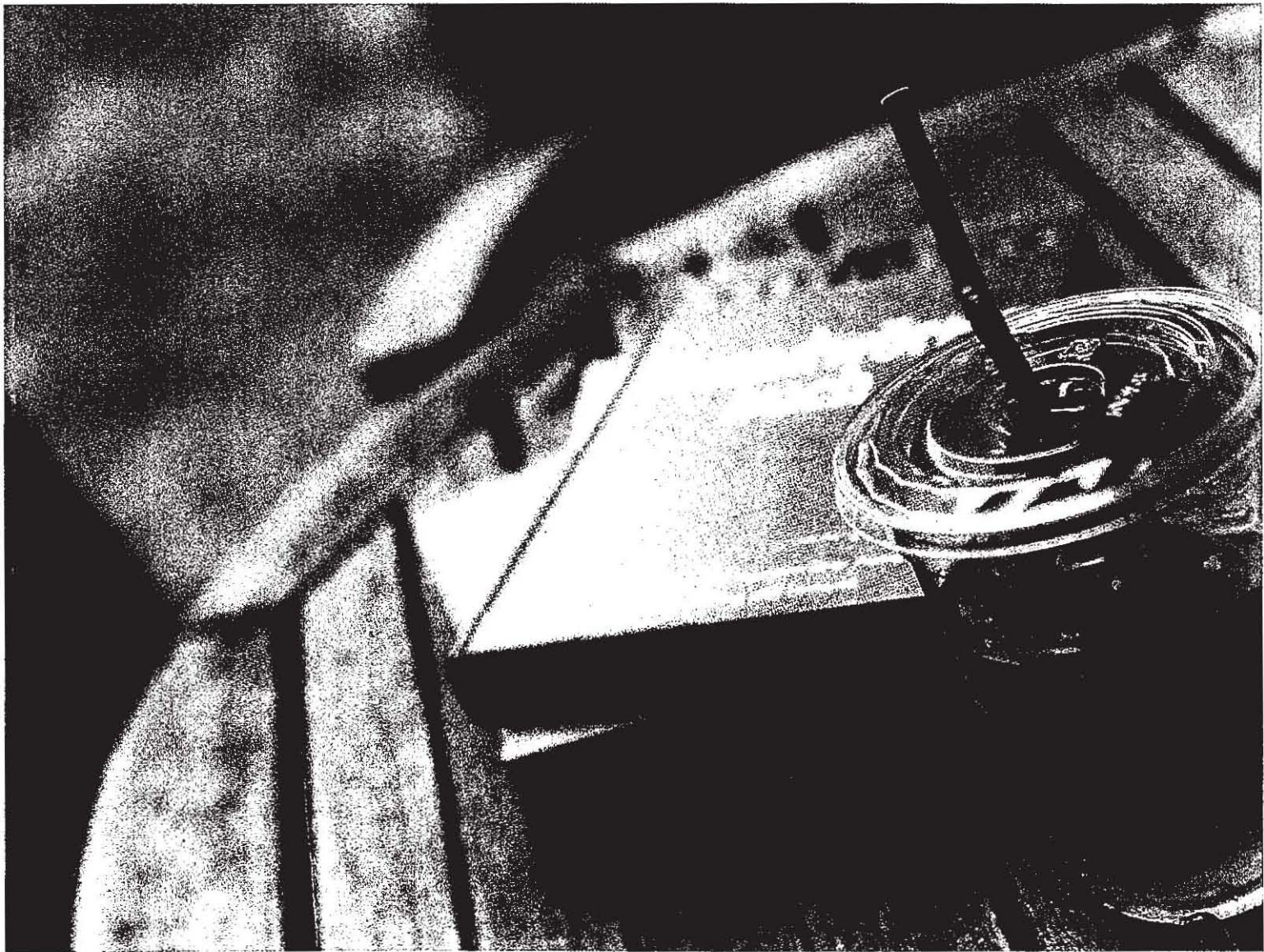


創立前史

- 明治 7 (1874) 7. 1 広島県、白鳥学校 (広島市東白鳥町) を創立。
- 明治 8 (1875) 4.12 白鳥学校を広島県公立師範学校と改称。
- 明治10 (1877) 3. 7 広島県公立師範学校を広島県師範学校と改称
- 明治12 (1879) 9.10 教育令により、広島県師範学校を広島県広島師範学校と改称。
- 明治19 (1886) 7.31 師範学校令により、広島県広島師範学校を広島県尋常師範学校と改称。
- 明治20 (1887) 12. 6 県知事千田貞暁、官民有志と広島高等女学校 (広島市天神町) を創設。校主山中正雄。
- 明治31 (1898) 4. 1 師範教育令により、広島県尋常師範学校を広島県師範学校と改称。
- 明治34 (1901) 4. 1 広島高等女学校を私立広島高等女学校と改称。
- 明治35 (1902) 4. 1 **広島高等師範学校 (広島市国泰寺村) を設置。**
- 明治41 (1908) 4. 1 私立広島高等女学校を私立山中高等女学校と改称。
7. 1 広島県三原女子師範学校 (御調郡三原町) の設置および翌年4月から開校の件、認可。
- 大正 8 (1919) 9. 5 私立山中高等女学校を山中高等女学校と改称。
- 大正 9 (1920) 1.17 広島高等工業学校 (広島市国泰寺新開) を設置。
- 大正10 (1921) 2.12 広島高等師範学校、ベスタロッチャーに関する講演会および展覧会を開催 (以後「ベスタロッチャーの夕」として恒例となる)。ベスタロッチャー室を設置。
- 大正11 (1922) 4. 1 広島県福山師範学校 (福山市霞町) を開校。広島県師範学校を広島県広島師範学校と改称。広島県実業補習学校教員養成所 (賀茂郡西条町) を広島県立西条農学校に併置。
- 大正12 (1923) 3.23 広島文理科大学の創立予算成立 (ただし9月1日の関東大震災で繰り延べ)。
- 12.10 広島高等学校 (広島市皆実町) を設置。
- 昭和 4 (1929) 4. 1 官立文理科大学官制 (勅令第37号) が公布され、**広島文理科大学 (広島市東千田町) を設置。****広島高等師範学校は広島文理科大学に附置。**
- 昭和 7 (1932) 3.31 広島県福山師範学校を廃止。
4. 1 広島県広島師範学校を広島県師範学校と改称。
- 昭和10 (1935) 4. 1 青年学校教員養成所令により、広島県実業補習学校教員養成所を広島県立青年学校教員養成所と改称。
- 昭和18 (1943) 4. 1 師範教育令改正にともない、広島県師範学校を官立に移管、専門学校程度に昇格。広島県師範学校を本部および男子部とし、広島県三原女子師範学校を女子部とする。
- 昭和19 (1944) 4. 1 師範教育令改正にともない、広島青年師範学校 (高田郡吉田町) を設置。
- 広島高等工業学校を広島工業専門学校と改称。
- 8.23 広島文理科大学附属理論物理学研究所を設置。
- 昭和20 (1945) 2.13 広島県立医学専門学校 (広島市皆実町) を設置認可。
4. 1 広島女子高等師範学校 (広島市国泰寺村) を設置。山中高等女学校は広島女子高等師範学校附属山中高等女学校となる。
- 広島市立工業専門学校 (広島市東雲町) を設置。
8. 6 広島市に原子爆弾が投下される。
- 8.20 広島市立工業専門学校で一部授業を再開。
- 9.15 文部省、「新日本建設ノ教育方針」を発表。
12. 4 女子教育刷新要綱を閣議了解 (女子に高等教育機関を開放、男女共学制の実施など)。
- 12.15 GHQ、「国家神道、神社神道ニ対スル政府ノ保証、支援、保全、監督並ニ弘布ノ廃止ニ関スル件」で学校教育から神道教育排除など指令。
- 12.26 広島文理科大学教授長田新が広島文理科大学長兼教授に任命され、広島高等師範学校長に補される。
- *この年、中国総監府が広島文理科大学本館に置かれ、文科系研究室では、疎開を開始する。
- 昭和21 (1946) 4. 7 GHQ、米国教育使節団報告書を発表。
5. 7 広島文理科大学教員適格審査委員会を設置し、同年12月中旬に不適格教授3名を発表。
- 8.10 戦後教育改革の基本理念等検討のため、総理大臣の諮問機関として教育刷新委員会設置。
- *この年、広島文理科大の国体学専攻が廃止される。また、呉の英連邦軍より、広島高等学校の大竹校舎・寮舎接収命令が下るが、GHQへ取り消しを陳情し成功する。
- 昭和22 (1947) 2.14 新学制を学園内に具体化する目的で、広島高等師範学校の教育制度調査委員会を改組し、学制審議会を広島文理科大学と共同して設置。
- 3.31 教育基本法、学校教育法公布、施行。
- 6.18 広島県立医科大学設立認可。学部開設は再審査 (翌年3月10日に正式認可)。
7. 8 大学基準協会創立 (新制大学の設立基準を決定)。
- 7.19 米国学術顧問団来日 (広島文理科大学も訪問)。
- 10.14 広島県が「国立広島総合大学設立試案申請書」を文部省に提出。
- 12.23 国立広島総合大学設立推進本部を県知事直轄として設置。
- *この年、広島高等学校の皆実町校舎が復興し移転を完了。薫風寮も自治寮として復活し、復興記念祝典を挙行する。また、広島工業専門学校が男女共学制を採用。
- 昭和23 (1948) 1.12 県議会、県、市町村、商工会などが広島総合大学設立期成同盟会を結成。
- 1.15 新制大学審査のため大学設置委員会設置。
- 2.10 各官立医学専門学校、医科大学に昇格。
4. 1 広島県立医科大学 (旧制・呉市阿賀町) が開学。
- 4.19 文部省、公私立大学12校の設立を認可 (初の新制大学)。
- 5.15 広島工業専門学校の復興工事完了、落成式ならびに記念産業博覧会を開催 (6月8日まで)。
7. 6 CIE教育課、国立大学編成の原則を指示。
- 7.25 「国立広島総合大学設置申請書」を文部省に提出。
11. 7 元海軍特務駆潜艇を広島青年師範学校の実習船として大蔵省より移管 (昭和24年6月1日「豊潮丸」と命名)。
- *この年、広島文理科大学教授藤原武夫が第38回日本学士院賞を受賞する。また、広島県と岡山県とで国立総合大学の誘致運動が激化する。
- 昭和24 (1949) 1.12 教育公務員特例法公布。
- 4.12 大学基準協会、「大学院基準」を決定 (修士・博士課程、単位制度を採用)。

平成24年度 学生便覧

教育学部
特別支援教育特別専攻科
FACULTY OF EDUCATION
HIROSHIMA UNIVERSITY 2012



1.6 教育学部の沿革と特色

1 教育学部の理念・目標

科学技術の飛躍的進歩や高度情報化、国際化、さらには少子・高齢化など、地球的規模で進行している大きな変化の流れの中にあつて、人類の平和的共存や自然と人間との豊かな共生は、21世紀の最も重要な課題である。この課題に応えるために、「教育」という営みはかつてないほど重要になっている。

平成12年4月に発足した教育学部は、「教育」や「学び」という人類に普遍的な営みを専門的に学習することが、21世紀の地球的課題を「学ぶ」ことにつながるという理念の下、学生のみならず教職員を含む全ての構成員が、幅広い社会的視野と豊かな課題探究能力を培うことを目標としている。

この理念・目標実現のため、教育学部は、旧教育学部と学校教育学部がこれまで行ってきた教育研究の成果と特色を活かしながら、社会の変化とともに多様化する教育諸課題を理論と実践の統合化によって、学際的・総合的視点から探究するとともに、21世紀にふさわしい学校教育の創造と生涯学習社会構築への貢献をめざして、小学校から高等学校までの教員のみならず、生涯学習社会の幅広い職業分野で活躍できる人材の育成に努めている。

2 教育学部設置の経緯

(1) 設置当初の教育学部

現在の教育学部の源流は、昭和24年5月31日、法律第150号国立大学設置法により、広島大学が、広島文理科大学（附属研究所を含む。）、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校及び広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して、6学部（文学部、教育学部、政経学部、理学部、工学部及び水畜産学部）からなる新制総合大学として発足した時点まで遡る。

当初の教育学部は、東千田町に教育学部（本部）、東雲分校、三原分校及び福山分校の3つの分校並びに11の附属学校園（うち附属幼稚園は昭和41年設置）を擁した全国でも最大規模の学部であった。また、東千田町の教育学部（本部）は、中等学校教員養成にあつてきた広島高等師範学校（明治35年創設）の文科・理科、広島文理科大学（昭和4年創設）の教育学科（教育学専攻及び心理学専攻）を母体として、教育学科と心理学科及び高等学校教員養成のための高等学校教育科の3学科で構成されていた。

東雲分校は、明治5年の学制頒布による教員養成所であった白鳥学校（明治7年創設）に端を発した広島師範学校（昭和18年創設）を母体に、三原女子師範学校（明治42年創設）を前身とする三原分校とともに、義務教育諸学校の教員を養成する分校として発足した。福山分校は、広島青年師範学校（昭和19年創設）と広島女子高等師範学校（昭和20年創設）を母体に、高等学校教員養成の高等学校教育科として発足した。

(2) 旧教育学部と学校教育学部

当初2年課程で発足した東雲分校は、昭和30年以降逐次4年課程に移管し、小学校教育科、中学校教育科、特殊教育科として次第にその内容の充実が図られた。また、昭和37年三原分校は東雲分校に統合された。昭和38年教員養成大学・学部に「課程」を置く規程が制定され、昭和39年高等学校教育科は高等学校教員養成課程と改称され、東雲分校では、各教育科が小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、盲・聾・養護各教員養成課程に改称された。昭和41年附属幼年教育研究施設が、昭和48年東雲分校に特殊教育特別専攻科が、それぞれ設置された。

当初の教育学部は、昭和53年に改組され、東千田町の教育学部本部と福山分校を統合して教育学部となり、東雲分校は独立学部となり学校教育学部が設置された。

これに伴い、教育学部は従来の小講座を再編し、教育学科（教育哲学・教育史学、教育社会学・教育方法学及び教育行政学の3大講座）、心理学科（実験心理学と教育心理学の2大講座）に加え、高等学校教員養成課程が教科教育学科（国語、英語、社会科、数学、理科、音楽、体育、家政各教育学の8大講座、うち音楽、体育、家政各教育学は福山分校）となって、3学科体制の学部となった。さらに、昭和61年日本語教育学科（日本語教育学、日本語学、言語学及び日本文化学の4大講座）を増設し、4学科17大講座となった。平成元年9月、教育学部と教育学部福山分校が東広島市に統合移転を完了した。

学校教育学部は、義務教育諸学校の教員養成を目的とした学部となり、昭和63年教育実践研究指導センターを設置した。広島大学の統合移転に伴い平成7年3月東広島市に移転した。同年障害児教育実践センタ

一を設置し、平成8年教育実践指導センターは教育実践総合センターに改組された。

(3) 教育学部の改組・統合と大学院講座化

平成9年の統合移転完了から4年後の平成12年4月、従来の教育学部と学校教育学部を改組・統合し、教育組織と教官組織を一新し現在の教育学部が発足した。更に、平成13年4月には大学院教育学研究科の整備に伴い、学部所属の教官組織である16大講座が大学院の講座となり、大学院講座所属の教官が学部教育を併任して担当するという形を取ることとなった。

3 現在の教育学部とその特色

(1) 教育組織の特色

現在の教育学部の教育組織の特色は、類一コース制によって、専門教育の選択履修の幅を拡大し、学生の学習ニーズや卒業後の幅広い進路に対応できる豊富なカリキュラムを用意し、入学後に、進路に対応した授業科目を学生自身が選択して履修することができることにある。また、希望するコースを選択して受験できるので、学生の目的意識に沿った専門教育を受けることができる。

本学部の5類一15コース制は、以下の教育組織から構成されている。小学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教員を専門的に養成する第一類（学校教育系）には、初等教育教員養成と特別支援教育教員養成の2コースがある。中学校・高等学校教員を希望する学生には、主に第二類（科学文化教育系）、第三類（言語文化教育系）及び第四類（生涯活動教育系）の三類において、卒業要件単位内で希望する校種・教科の一種免許状が取得できるカリキュラムが用意されている。

また、第二類には、自然系、数理系、技術・情報系、社会系の4コースが、第三類には、国語文化系、英語文化系、日本語教育系の3コースが、第四類には、健康スポーツ系、人間生活系、音楽文化系、造形芸術系の4コースがある。これらの中、特に、日本語教育系コースは、外国人の日本語教育を行う人材養成を目的としている。第五類（人間形成基礎系）には、教育に関わる人間形成の基礎学を学ぶことを目的とした教育学系と心理学系の2コースがある。

第二類から第五類では、生涯学習・文化諸施設等での指導者、民間企業における企業内教育の専門家、さらには教員以外の教育関係公務員等を希望する学生に対し、所属コースのみならず他コースや他学部で開設する科目の履修を大幅に認めている。さらに、専門諸科学を深く究明することを希望する場合には、大学院教育学研究科に進学し、高度専門職業人や研究者をめざす道も開かれている。

(2) 教員の研究組織と学部教育の特色

教員の研究組織は、大学院所属の16大講座と学部附属の1研究施設（幼年教育研究施設）3センター（教育実践総合センター、障害児教育実践センター、心理臨床教育研究センター）からなっている。また、学部で開設する授業は、これらの教員組織に所属する全教員が提供する方式をとっており、従来の講座制による狭い教員組織に対応した学部教育となっていない点が、本学部における学部教育の特色である。

4 現在の教育学部と教育学研究科の沿革

昭和24年5月	広島大学発足とともに教育学部設置
昭和28年4月	大学院教育学研究科（教育学、教育行政学、実験心理学、教育心理学の4専攻で構成された修士課程、博士課程）設置
昭和28～29年	東雲分校に盲・聾教育兼修課程設置
昭和30年4月	小学校教育科（4年課程）を東千田町地区より東雲分校に移管
昭和31年6月	教育学部（本部）の建物が東千田町に竣工
昭和33年4月	福山分校に教育専攻科（保健体育専攻）設置
昭和34年4月	中学校教育科図画工作科を4年課程に昇格（昭和37年美術科に改称）
昭和35年4月	東雲分校の特殊教育（盲・聾教育兼修）課程を4年課程に昇格とともに養護学校教育兼修課程設置
	中学校教育職業科を福山分校より東雲分校に移管（昭和37年技術科に改称）
昭和36年4月	中学校教育科（4年課程：国語・社会・数学・理科・英語）を東千田町地区より東雲分校に移管
	福山分校の教育専攻科に音楽専攻、家政専攻増設
昭和37年3月	三原分校を東雲分校に統合

昭和 39 年 4 月	広島大学通則で東雲分校の小・中・盲・聾・養護の各教育科並びに東千田町と福山分校の高等学校教育科が、それぞれ教員養成課程となる。
昭和 41 年 4 月	大学院教育学研究科に教科教育学専攻（国語教育，英語科教育，社会科教育，数学科教育，理科教育）の修士課程と博士課程を増設 附属幼年教育研究施設（幼児教育学部門）設置
昭和 42 年 4 月	中学校教員養成課程の音楽・体育・家政を福山分校より東雲分校に移管
昭和 44 年 4 月	教科教育学専攻に音楽科教育，保健体育科教育，家政科教育（修士課程）を増設
昭和 45 年 4 月	東雲分校に教育専攻科設置
昭和 46 年 4 月	附属幼年教育研究施設に幼児心理学部門増設
昭和 48 年 4 月	東雲分校に特殊教育特別専攻科設置
昭和 50 年 4 月	大学院教育学研究科に幼児学専攻（修士課程）増設 大学院教育学研究科に幼児保健学講座（幼児学専攻基幹講座）設置 大学院教育学研究科の教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学及び教科教育学の 5 専攻を，博士課程（前期，後期）に改組
昭和 51 年 5 月	日本語・日本事情講座増設
昭和 53 年 6 月	改組により，3 学科 13 大講座の教育学部（東千田町（本部）と福山分校）再編と 学校教育学部（東雲分校）設置
昭和 55 年 4 月	大学院学校教育研究科（学校教育・障害児教育・言語教育・社会科教育・理科教育・保健体育の 6 専攻の修士課程）設置
昭和 56 年 4 月	大学院学校教育研究科に数学教育・美術教育 2 専攻の修士課程増設
昭和 57 年 4 月	大学院学校教育研究科に音楽教育専攻（修士課程）増設
昭和 60 年 7 月	広島大学外国人留学生日本語研修コース設置
昭和 61 年 4 月	教育学部に日本語教育学科設置
昭和 63 年 4 月	学校教育学部に附属教育実践研究指導センター設置
平成 元年 4 月	大学院教育学研究科に幼児学専攻（博士課程）設置
平成 元年 5 月	福山分校廃止。ただし，学内措置により平成元年 9 月まで存続。
平成 元年 9 月	教育学部及び教育学部福山分校が東広島市統合移転地に移転完了
平成 2 年 4 月	大学院教育学研究科に日本語教育学専攻（修士課程）増設
平成 3 年 4 月	大学院学校教育研究科に生活科学教育専攻（修士課程）増設
平成 4 年 4 月	大学院教育学研究科に日本語教育学専攻（博士課程）増設
平成 7 年 4 月	学校教育学部が東広島市統合移転地に移転完了
平成 7 年 4 月	学校教育学部に附属障害児教育実践センター設置
平成 8 年 5 月	学校教育学部附属教育実践研究指導センターを改組し，教育実践総合センター設置
平成 9 年 4 月	大学院教育学研究科に学習開発専攻（博士課程後期独立専攻）増設 大学院教育学研究科の教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学，教科教育学，日本語教育学，幼児学の 7 専攻を，教育科学専攻，心理学専攻，教科教育科学専攻，生涯活動教育学専攻，日本語文化教育教育学専攻及び幼年期総合科学専攻の 6 専攻に改組
平成 12 年 4 月	教育学部と学校教育学部を統合し，教育学部に改組 大学院教育学研究科（博士課程）と学校教育研究科（修士課程）を改組・統合し大学院教育学研究科を設置
平成 13 年 4 月	大学院教育学研究科の整備に伴い，学部所属の 16 大講座が大学院所属となる大学院講座化が行われた。
平成 14 年 4 月	学部附属施設の研究科附属施設への移行（附属幼年教育研究施設，附属教育実践総合センター，附属障害児教育実践センター）附属心理臨床教育研究センター設置
平成 16 年 4 月	国立大学法人広島大学発足
平成 19 年 3 月	学校教育学部廃止
平成 19 年 4 月	特殊教育特別専攻科（知的障害教育専攻）を特別支援教育特別専攻科（特別支援教育専攻）に名称変更
平成 20 年 4 月	附属障害児教育実践センターを附属特別支援教育実践センターに名称変更

広島大学教育学部
設置計画書

平成11年7月30日

文 部 大 臣 殿

広島大学長 原 田 康 夫

このたび、広島大学教育学部を設置したいので、別紙設置計画書を提出します。

大学等の概要を記載した書類

事 項	記 入 欄	備 考							
設置者	広島大学(国)								
名 称	広島大学								
位 置	広島県東広島市鏡山一丁目3番2号								
目 的	<p>科学技術の飛躍的進歩や高度情報化，さらには急速に進展する国際化や生涯学習社会化等，人間を取り巻く諸環境は，地球的規模で急激に変化している。こうした変化の中にあつて，初等から高等教育までの教育改革の推進が国家的課題になってきている。また，学校教育については，いじめや不登校，学級崩壊，校内暴力等の緊急な解決とともに，「生きる力」の育成が，21世紀初頭の極めて重要な学校教育課題になっている。</p> <p>こうした諸課題に対応するためには，教育諸科学研究における理論的研究と実践的研究の統合化を推進し，生涯発達及び学校教育と生涯学習とのつながりを視座においた初等から中等学校までを一貫した教員養成及び幅広い教育関係分野で活躍できる人材養成が不可欠である。</p> <p>本学部は，教育諸科学分野における理論的研究と実践的研究の統合化を推進し，幅広い社会的視野と高度な実践的指導力を有する初等から中等学校までの教員養成及び社会的ニーズに対応した幅広い教育関係職に従事できる人材の養成を目的として設置するものである。</p>								
学 部 等 の 名 称	学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	取 容 定 員	学 位 又 号 は 称 号	開 設 の 時 期 及 び 開 設 年 次	所 在 地	
	(計画分)	年	人	年次 人	人				平成12年4月から教育学部及び学校教育学部の学生募集を停止(△685)し，在学生の卒業を待って廃止
	教育学部 第1類 (学校教育系)	4	180	-	720	学士(教育学) 学士(心理学)	平成12年 4月1日 第1年次	広島県東広島市鏡山 一丁目1番1号	
	第2類 (科学文化教育系)	4	100	-	400	"	"	"	入学定員振替 教育学部
	第3類 (言語文化教育系)	4	90	-	360	"	"	"	教育学科 △35 心理学科 △30 教科教育学科 △230 日本語教育学科 △40
	第4類 (生涯活動教育系)	4	100	-	400	"	"	"	学校教育学部
第5類 (人間形成基礎系)	4	55	-	220	"	"	"	小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 盲学校教員養成課程 聾学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 } Δ 190	

正 本

平成11年7月30日

広島大学大学院教育学研究科設置計画書
(3-1)

広 島 大 学

大学院等の設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類

1 設置の趣旨

広島大学の教育学系大学院は、昭和28年に教育学研究科（修士課程・博士課程）が設置され、教育学、心理学及び教科教育学を中心とした基礎的・理論的研究を推進し、わが国の教育学や心理学の研究の中核を担い、優れた研究者や教育者を輩出してきた。一方、学校教育研究科は、昭和55年に設置され、高度な実践的指導能力を有する、主として義務教育関係諸学校の教員養成と実践的研究の分野において教育界に寄与している。

（新）教育学研究科の設置は、既存の二研究科の統合による新しい研究と教育の実現である。今日のわが国における「学び」の環境は急速に拡大するとともに、多様化、複雑化しており、従来の研究の手法、視点のみによっては解決が困難なものが多くなっている。多様な学びの解明と学びの支援のあり方の究明と方法の開発、更に、高度な研究能力や実践能力を有する人材養成のためには、これまでのような二研究科体制で研究と教育をそれぞれ遂行することよりも、現体制の成果としての、基礎的・理論的研究と実践的研究及び人材養成にかかわる知見を、既存の両研究科それぞれの研究と教育の特色を活かしつつ統合することが望ましい。

いじめや不登校、学級崩壊・学校崩壊等、学校教育にかかわる深刻な問題が山積し、新しい世紀にふさわしい教育を創造するために改革がスタートしている現在は、特に、学校教育にかかわる難題の解決が緊急の課題であるが、同時に、生涯学習社会の進展は、「学び」の研究と教育の場である教育学系大学院に新しい教育諸科学研究の推進を求めている。現在の二研究科において培ってきた知見と現有の人材（研究者、教育者）の活用をもってすれば、このような現代的で緊急の課題の解決に寄与することが可能である。

2 必要理由

「学び」という行為は、人間にとって最も本質的な営みであるが、今日の「学び」は、急速に多様化、複雑化し、多くの深刻な課題も抱え込んでいる。21世紀の「学び」に適切に対応するためには、これまでの教育諸科学研究と、その支援にかかわる人材養成のあり方を再検討し、新たな研究と教育の体系を確立することが求められている。

「学び」の研究と教育への新しい取り組みは、以下のような視点で具体的に進められる必要があり、この取り組みの成果は、（新）教育学研究科において、最も優れた成果を挙げうると期待される。

(1) 理論研究と実践研究の統合

広島大学は、わが国で唯一、二つの教育学系大学院を有する大学である。（現）教育学研究科は、教育にかかわる理論研究に主として取り組み、（現）学校教育研究科は、教育の実践研究の遂行を主たる任務にして、それぞれが独自の存在理由を持ちながら優れた成果を生みだしてきている。課題への効果的で本質的な取り組みと

大学院等の概要を記載した書類

事 項	記 入 欄	備 考							
設置者	広島大学(国)								
名 称	広島大学大学院								
位 置	広島県東広島市鏡山一丁目3番2号								
目 的	<p>科学技術の飛躍的進歩や高度情報化、さらには高齢化や国際化、生涯学習社会化等、人間を取り巻く社会的諸環境の変化は実に目まぐるしく、かつまた急激である。こうした変化の中において、幼児教育から高等教育、さらには成人の生涯学習に至るまでの「教育」という営みに関しては、既存の教育諸科学研究の高度化、先端化のみならず、学際化・総合化、とりわけ理論的研究と実践的研究の統合化を図りつつ、社会的諸環境の変化とともに急増している新たな教育諸課題に対応できる教育諸科学研究の推進と、多様化している教育関係職に従事できる高度な専門性を有する人材の育成が不可欠である。</p> <p>本研究科は、人間の生涯発達を視野に据え、教育学や心理学、教科教育学等の教育諸科学研究における理論的研究と実践的研究の統合化を図りつつ、幼児期から成人に至るまでの教育諸事象を多角的・学際的に研究し教育分野の研究者や教員等の高度専門職業人の養成を目的として設置するものである。</p>								
研究科 専攻 及び 課程 の 名 称 等	研究科、専攻及び 課程の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学 位 称 又 号	開 設 の 時 期 及び開設年次	所 在 地	
	(計画分)	年	人	年次 人	人				基礎となる学部等
	教育学研究科 学習科学専攻 (博士課程)	前期2	15	-	30	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	平成12年 4月1日 第1年次	広島県東広島市鏡山 一丁目1番1号	教育学部第1類 教育学部第2類 教育学部第3類 教育学部第4類 教育学部第5類
	障害児教育学専攻 (博士課程)	前期2	5	-	10	"	"	"	
	科学文化教育学専攻 (博士課程)	前期2	35	-	70	"	"	"	14条特例の実施
	言語文化教育学専攻 (博士課程)	前期2	30	-	60	"	"	"	
	生涯活動教育学専攻 (博士課程)	前期2	25	-	50	"	"	"	
	教育学専攻 (博士課程)	前期2	15	-	30	"	"	"	
	心理学専攻 (博士課程)	前期2	15	-	30	"	"	"	
	高等教育開発専攻 (博士課程)	前期2	5	-	10	"	"	"	
学習開発専攻 (博士課程)	後期3	7	-	21	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	"	"		
文化教育開発専攻 (博士課程)	後期3	20	-	60	"	"	"		
教育人間科学専攻 (博士課程)	後期3	16	-	48	"	"	"		